

エステル・サラモン プロフィール

ブダペストの国立ダンスアカデミーでクラシックバレエを学び、同校を卒業後、1992年からフランスでシドニー・ロション、マティルド・モニエ、フランソワ・ヴェレといった振付家とともに仕事をする。

2000年、ブレンダ・エドワーズとともにモンペリエ・ダンス・フェスティバルの「ポトラッチ・デリヴェ」でデュオ作品《Où Sont Les Femmes ? 》を発表。

2001年にソロの作品《What A Body You Have, Honey“?” 》をニュルンベルクで初演。同年、アヴィニョンの演劇祭でもクサヴィエ・ル・ロワとの共同制作の《Gizelle》が発表された。

2002年、ヘルマン・ディフュイ、シモーヌ・ヴェルドと共にモンペリエ国立振付センターで《Répétition d'Un Travail En Cours》を発表。また、クレアumont・フェランのコメディ劇場の招待により、7歳から74歳の女性ばかり18名が出演する作品《Woman Inc. © 》を発表。

2003年、グラーツ（オーストリア）の「シュタイアーの秋」フェスティバルで、ベルンハルト・ラングの作品《Theater der Wiederholungen》の演出助手および振付を務める。

2004年、ベルリンのアートセンター、ポーデヴィルのレジデンスプログラムで創作したグループワーク《Reproduktion》を初演。同年、ヴィラ・メディチの奨学金「Hors les Murs」を得ている。

2005年5月、リヨンのフェスティバル「Les Intranquilles」で、3部作の第1部となる《Magyar Tancok》を発表。ウンターデンリンデン・ベルリン国立歌劇場のプロジェクト、「Seven attempted escapes from Silence」において、ハリム・ハダッドによるオペラの演出も手がけた。

2006年、旧炭鉱遺跡をアートセンターに再生したツォルフェラインのNRW-PACT振付センターでは、《Nvsbl》の初演が行われた。

2007年、リヨンの「Substances」で《AND THEN》を発表、ならびにアランクタ・マルティネスとともに、《Without you I am nothing》のタイトルでコンサート・パフォーマンスを行った。

2008年5月末、ベルギーの「Kunstenfestivaldesarts」で、クリスティーネ・デ・スメートとともに、ダンス・デュエット《Dance #1 / Driftworks》を発表。現在はモンペリエの国立振付センターで振付リサーチプロジェクト「6M1L (6ヶ月1箇所)」に参加している。